

「GO! GO! キッズ学習支援プロジェクト」

教育・研究

ボランティア

代表者：人文学部社会科学科 3年 大高 千佳

連携先

ふうあいねっと

顧問教員

原 口 弥 生 (人文学部 准教授)

参加者

石 川 和 花 (人文学部 3年)
磯 前 千 暁 (人文学部 2年)
海 野 彩 花 (人文学部 3年)
大 河 由 佳 (人文学部 3年)
大 高 千 佳 (人文学部 3年)
大 塚 愛 子 (人文学部 3年)
大 宮 友理加 (人文学部 2年)
岡 田 紗 織 (人文学部 3年)
小 原 瑛 平 (人文学部 5年)
今 野 力 (人文学部 3年)
斉 藤 友 実 (人文学部 4年)
斉 藤 春 香 (教育学部 4年)
佐々木 龍 馬 (理学部 4年)
塩 原 理 花 (人文学部 2年)
実 方 くるみ (人文学部 2年)
砂 押 由 美 (人文学部 3年)
関 根 悠 貴 (人文学部 3年)
高 柳 真理子 (人文学部 2年)
高 山 美 緒 (人文学部 3年)
飛 田 祐 志 (理学部 4年)
永 井 万 穂 (人文学部 2年)

中 村 眞 美 (人文学部 2年)
成 田 萌 華 (人文学部 3年)
野 田 桃 子 (人文学部 3年)
浜 田 すみれ (人文学部 2年)
平 田 恵莉子 (人文学部 3年)
星 野 由季菜 (人文学部 2年)

プロジェクトの申請内容

このプロジェクトは、「ふうあいねっと」と連携し、震災・原発被害のため東北から避難してきた子どもたちを対象とした学習支援を行う。私たちは、人文学部原口弥生研究室の「福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト茨城チーム」に参加し、避難された子ども家族を対象としたママカフェ/茶話会での交流で、主に託児を担当してきた。そして、お母様方と直接お話する中で、子どもの学習面での遅れや意欲の低下に大きな不安があり、それらの対策へのニーズがあることに気がついた。そのため、まず第一歩として、夏休みに期間を限定した学習支援プロジェクトを発足する。

◆プロジェクト概要

〔概要〕

東北から茨城県へ避難してきた子ども達を対象とした学習支援

〔目的〕

・茨城に避難している子どもたちが抱える学習の遅れ、学校に馴染めないなど様々な不

安要因を少しでも減らす

- ・ 学習面はもちろん、同じ世代の交流を作り、楽しい充実した時間を送ってもらうことで精神面でのサポートも目的とする
- ・ 子どもたちを参加させることで親御さんの時間作り、待合室を設けることで親御さん同士の交流の場も同時に作る

◆本年度の活動

2012年

月	内容
5月	プロジェクト発足
7月	県内避難者への夏休み学習支援プロジェクト案内配布・広報 参加申し込み開始 ニーズ聞き取り
8月	「夏休み勉強会」 20日(月)～24日(金)実施

〔その他活動〕

- ・ キッズプロジェクトとしてキッズ・クッキングやレクリエーション企画
- ・ 引き続きニーズ調査

◆期待される効果

- ・ 学習意欲の向上や、子ども同士の交流により心のゆとりをもつことが出来るようになる
- ・ 子ども同士の新しい交流の輪が広がる。
- ・ 子どもたちの不安を取り除くことで、親御さんの不安解消にも繋がる
- ・ アンケートの実施や直接話を聞くことで、避難されている方々の現在のニーズを再確認し、さらなる支援やプロジェクトに繋がる

プロジェクトの実施概要

本年度は「夏休み勉強会」と「冬の勉強会」の2回の勉強会を実施した。

①夏休み勉強会

〔日時〕

8月20日(月)～8月25日(金)

10時～15時30分

〔場所〕

茨城大学地域総合研究所

他茨城大学水戸キャンパス構内

〔内容〕

夏休みの宿題を終わらせることを目標とした5日間の連続学習会

午前⇒2時間集中して勉強

昼休み⇒子供と学生が一緒にお弁当

午後⇒日替わりのレクリエーション

〔スイカ割り・かき氷・うちわ作り・スライム作り・ビンゴ大会〕

* 親御さん向けに待合室を用意

→個別相談会(教育カウンセラー)

相談内容:子どもの塾について等



〔気をつけた部分〕

- ・ 初日には教育カウンセラーをしているボランティアの方を招き、参加する子供たちの

スムーズな交流の支援

- ・ 勉強会の開催時期が夏休みということで、「夏休みの宿題を終わらせる」ことを目標として設定
- ・ 毎日の勉強を始める前に、あいさつと自分の目標を発表
- ・ 決まった時間に休憩を入れて、学習にメリハリをつける
- ・ 子供1人に必ず学生スタッフ1人を付け、わからない部分等の対応をする
- ・ 無理に勉強させることはしない

②冬の勉強会

〔日時〕

12月16日（日）10時～15時30分

〔場所〕

茨城大学人文学部A棟220番教室他

〔内容〕

午前⇒2時間集中して勉強

午後⇒クリスマス会



夏休み勉強会の後、これからも継続して行なって欲しいという声が多く、12月にも行なった。子供たちの継続した交流の必要性もあると考え、前回参加した子供を中心に参加を呼び掛けた。

冬の勉強会では、常磐大学の学生もボランティアスタッフとして参加した。近隣の大学と交流することで、活動の輪が広がるのが期待できた。

また、明治製菓の株主様よりお菓子の寄付をしていただき、子供たちにクリスマスプレゼントとして配布した。

プロジェクトの成果報告

本年度のプロジェクト実施における成果は以下の通りである。

〔2回の勉強会を通して〕

- ・ 小学生の夏休みの宿題はたくさんあるため、絵画や習字の課題も持ってきて良いことにし、学生と一緒に絵画の課題を終わらせた子もいた
- ・ 午後のレクリエーションでは、子供たちは勉強を頑張ったご褒美として思いっきり遊んでいた
- ・ 子供達は休み時間には「鬼ごっこ」や「だるまさんが転んだ」を一緒に行ない、時間とともに打ち解けていった
- ・ 最初、周りの雰囲気馴染めていなかった子、学生と話をすることを恥ずかしがっていた子も、一緒にレクリエーションを行なったことで打ち解けていった
- ・ 常磐大学の学生ボランティアと協力することで支援の輪が広がるきっかけとなった
- ・ これからも勉強会や交流会などの保養が必要だと感じた
- ・ 継続する重要性和新たな課題の発見

〔参加者より〕

- ・ 子供達から「お家では我慢しなきゃいけないけど、ここはすごく楽しい！」
- 「将来は茨城大学に入りたい！」と言って貰う事ができた
- ・ 子どもの塾について悩んでいた親御さんからは、「学生に話を聞いて貰える機会があって良かった」、「参考にしたい」と言って頂き待合室を設けてよかったと感じた

〔情報発信〕

学習支援の報告を外部に向けて発信した。

①12月2日（日）

「住友商事 東日本再生ユースチャレンジプログラム2012」報告会への参加

②2月3日（日）

「福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト」報告会への参加

（茨城拠点 ジュニアとして）

⇒毎日新聞茨城版掲載、TBSニュース・NHKニュースにて放映

2013/02/04 毎日新聞茨城版 朝刊

（第3種郵便物認可）

福島乳幼児妊産婦支援

「全国で団結必要」

拠点5カ所 都内で合同報告会

東日本大震災発生から1年、福島県から避難者を受け入れる「福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト」の合同報告会が3日、東京都内であり、各地で活動する支援者約100人が出席し、茨城県からの参加者も発言した。同プロジェクトは、茨城、栃木、群馬、新潟、東京の5カ所が拠点となり、震災後から起元の大学教員を中心に中心地で交流会を開くなど、避難者の要望を聞き取って応えてきた。

【鈴木敏子】

この日は、私たちは、聖子さん36は、茨城、ことなりの団体「なごころ」から、何を大で行われた支援に、避難に聞ける専門ベテランをテーマに、集まった母親たちで、性をもった団体がある。報告も交えてハネルデ、助ケル」。「くしま」といって、発信した。イフカッションを行って、キッズカフェを設立。一斉、同プロジェクト

「いろいろな支援団体があるのはいずれい、茨城大3年の大浦市に滞在中で、現在、高千桂さんが、夏休み入の子育て中の四井」ともある。【記者】 期間中に行った小学生

への学習支援について発表。とても好評だったという。「時間の経過とともに、身近なサポートが必要になる。これからも学生だからこそできる支援策を考えていきたい」と話した。報告会は、間もなく震災発生から9年を迎えるのを前にして、福島の課題、団結して取り組むべき」との認識を共有し、閉会した。

「福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト」の合同報告会で、現状や今後求める支援について意見を述べる四井さん（左から2番目）＝東京都渋谷区で

